

運動の楽しさに浸り 豊かに関わり合いながら 課題を追究する児童の育成を目指して

「マットゆうえんちで あそぼう」 1年 器械・器具を使つての運動遊び領域

『わたしたちの体育』 P. 40～43

鳥取県鳥取市立面影小学校 教諭 澤田 孝志

1 はじめに

器械・器具を使つての運動遊びの領域は、運動遊びの楽しさに触れることを通して、回転、支持、逆さの姿勢、手足での移動などの基本的な動きや技能を身に付けることができる特性をもっている。また、マット遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる特性ももっている。

本校児童は、運動能力や運動機会の個人差が大きいという課題がある。本実践では、「運動の楽しさに浸り 豊かに関わり合いながら 課題を追究する児童の育成を目指して」とテーマを設定した。運動が苦手・意欲的でない児童と運動が得意・意欲的である児童のそれぞれが関わり合いながら楽しめる体育授業、児童が主体的に課題解決に取り組む体育授業、スモールステップで児童にやさしい体育授業に取り組むことで、体育授業で児童の運動意欲が喚起されたり、さらには休憩時間に運動機会が増加したりすることにつなげたいと考えた。

実践にあたっては、『わたしたちの体育』(P. 41)を活用し、前ころがりや後ろころがりの技能の習得のために、ポイントをおさえたり、友達にアドバイスする視点を明確にしたりすることで、豊かに関わり合いながら、主体的に課題を追究する児童の育成を目指した。

2 実践内容

(1) 単元名「マットゆうえんちで あそぼう」『わたしたちの体育』1年 P. 40～43

(2) 単元目標

○マット遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともにマットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりすることなどして遊ぶことができる。 【知識及び技能】

○器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

○マット遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元計画 (全8時間)

時	1	2	3・4	5・6	7・8
学習活動	○目標や進め方を知ろう。 ・単元で目指す姿を知る ・流れや決まりを知る	○いろいろなマットあそびをしよう。 ・手足での移動の運動遊び ・回転の運動遊び	感覚づくりの運動 (動物のまねっこ など)		
			○前ころがりのやり方を伝えよう。 ・いろいろなゆりかご ・前ころがりとは ○場を工夫しよう。 ・坂道をつくって ・ジグザグにして	○後ろころがりのやり方を伝えよう。 ・いろいろなゆりかご ・後ろころがりとは ○場を工夫しよう。 ・坂道をつくって ・でこぼこにして	○マット遊びを工夫しよう。 マットゆうえんちとして ・坂道マット ・ジグザグマット ・でこぼこマット

(4) 授業の実際

① 単元の「ゴールイメージ」を共有するための活用

単元名の「マットゆうえんちで あそぼう」を児童に伝え、ゴールイメージを全体で共有するために、『わたしたちの体育』の挿絵を児童に提示したことで「かっこよく回りたい。」と技能の習得に意欲を燃やす児童の姿や、「いろいろなところをつくりたい。」と場の工夫に思考を巡らせる児童の姿を見ることができた。実際の授業では、単元の最後に本校オリジナルの「マットゆうえんち」をつくり、いろいろな動きで回って楽しむことができた。



②運動の楽しさに浸るための活用

『わたしたちの体育』の「やってみよう」には、動きの習得につながる運動がたくさん例示されている。本単元でも、感覚づくりの運動として毎時間の始めに行った。児童は、スモールステップでいろいろな動物のまねをしたり様々な動きをしたりする活動を通して、運動の楽しさを味わうとともに、器械運動領域で必要な腕支持感覚や平衡感覚を養うことができた。



やってみよう [P. 40]

③豊かに関わり合いながら課題を追究するための活用

第3時で「前ころがり」、第5時で「後ろころがり」のやり方を知り、スムーズに大きくできるためのコツを伝えることをねらいとした。まず、挿絵を活用し、構えから立つまでの動きを共有した。次に、実際に運動してみて出てきた課題（手につけない、立てない）に対するコツを出し合った。特に「後ろころがり」のこのつを伝え合う場面では、貼られた挿絵を指さしながら、「ここで手をパーにすると、（立つときにマットを）押せます。」や「ここで足を速く振ると、勢いよく立てます。」など、1年生なりの表現で課題を解決しようとしていた。また、共有したコツをカードに書いて、友達が技をする前にアドバイスしたり、「コツが全てできていたら、3点満点」というルールをつくってお互いに動きを評価したりして、児童が関わり合いながら主体的に学習する姿を見ることができた。



前ころがりと後ろころがりの挿絵 [P. 41]



3 終わりに

今回、『わたしたちの体育』を活用することによって、運動が得意な児童と苦手な児童のどちらにとっても、主体的な学びをすることができた。単元のゴールイメージを具体的に共有することで運動する意欲につながったり、挿絵や吹き出しを見ることで技のこのつを友達と伝え合ったりする姿につながったりしたことは、指導者として大きな喜びである。今後も『わたしたちの体育』を有効活用し、他の領域でも課題を追究し続ける児童を育成していきたい。